

オーディオ実験室収載

アナログアキュライザーの展開(10) －音源比較(10)－

1. 始めに

前報(9)に引き続いて、アナログアキュライザーの効果を受けつつ、フォーマット違いの各種音源を切り替えて比較試聴していきます。

2. アナログアキュライザーの適用と試聴方法

アナログアキュライザーの活用(19)からアナログアキュライザーの活用(21)までの検討結果を要約すると次のようになります。

アナログ音源再生時の適用

ステップアップトランス Stage1030 の入力端子

フォノイコ Brooklyn DAC+の出力端子

fidata 収納および TIDAL における MQA 音源のストリーミング再生時の適用

DA コンバーター Brooklyn DAC+の出力端子

他のディジタル音源再生時の適用

DA-3000 の入力端子 (Ex-Pro の出力後)

DA コンバーター Brooklyn DAC+の出力端子

今回も上記のルートでエルガーのチェロ協奏曲亦短調を聴いていきます。

アナログ

Warner Classics 019029587

ジャクリーヌ・デュ・プレ (vc) バルビローリ指揮ロンドンシンフォニー

MQA-CD

ワーナーミュージック WPCS-28424

ジャクリーヌ・デュ・プレ (vc) バルビローリ指揮ロンドンシンフォニー



BPODCH

2014年4月20日バーデン=バーデン祝祭劇場収録

ソル・ガベッタ(vc) ラトル指揮ベルリンフィル



2010年5月1日ヨーロッパ・コンサート2010（オックスフォード）収録

アリサ・ワイラースタイン(vc) バレンボイム指揮ベルリンフィル



3. アナログアキュライザーの試聴結果

アナログのデュ・プレ盤は、この曲がデュ・プレの定番といったもので、デュ・プレ一流のアクリエイティブで感情のこもった演奏です。

MQA-CDのデュ・プレ盤は、アナログのデュ・プレ盤と同じマスターのようで、アナログのデュ・プレ盤の印象をかなり復元してくれています。

BPODCHの演奏では、バーデン=バーデン祝祭劇場収録のガベッタも、ヨーロッパ・コンサート2010（オックスフォード）収録のワイラースタインも、それぞれ、デュ・プレに負けない個性的な演奏です。この曲のメランコリックな風情が、女性ソリストを魅了するのか、表情にもそれが現れています。ともに本拠地のベルリンフィル大ホールの収録ではないので、オーケストラの音の響き具合が違うようです。

4. まとめ

エルガーのチェロ協奏曲について、奇しくも女性ソリストばかりとなりましたが、アナログアキュライザーの効果を取り入れた、メディアや再生経路違いの音質や演奏の比較

が容易にできるようになりました。

以上